

# 市民による金沢文化の 継承と発展 II

～地域における文化体験学習／教育を考える～

## 2007年 研究成果報告書

平成19年10月  
金沢まちづくり市民研究機構  
4Cグループ

## 研究報告書発刊にあたって

本報告書は、平成15年に設立された金沢まちづくり市民研究機構第4期研究員の諸氏が1年間をかけて調査・研究した成果を金沢市への提言という形でまとめたものです。

さて、この研究機構は、金沢世界都市構想および金沢世界都市戦略会議の提言を受けて設立されたものです。その趣旨は金沢を世界都市として、世界のオンリーワンをめざす政策を、金沢に住み、金沢を愛する市民自らの手で調査・研究し、提言しようとするものです。この研究機構には専属のスタッフはいません。応募した市民研究員がスタッフであります。月1回ないし4回の、しかも夜の研究会や休日のフィールドワーク等を通じて、調査・研究してきました。この報告書はまちなかの生の声としてまとめられたものです。

その成果を研究成果発表会で公開し、今後の金沢市政策に反映されることを期待しています。

しかし、1年、2年と進み、今回で4期目となり、その取り組みに新しい工夫を加えるなど活性化が必要ではないかとも考えます。さらに、金沢周辺の大学の先生方をお願いしている研究ディレクターの先生方の負担も大きいものになっているのではないかと考える次第であります。

これらのことも踏まえて、第3期の研究発表会を市民の皆さんをはじめ県内外から集まるJR金沢駅東広場もてなしドーム地下広場で開催し、多くの皆さんに関心を持っていただき、好評をいただきました。これが国内はもとより世界に広がることを願っています。

ここで、改めて本研究機構のモットーであります「小さく生んで大きく育てる」の精神に帰って地道に努力して行きたいと思えます。

最後にご支援いただいた地元大学をはじめ関係機関の皆さんに感謝申し上げます。

平成19年10月

金沢まちづくり市民研究機構  
機構長 小堀 為雄

### 第4期研究グループと研究テーマ

- 4Aグループ お年寄りから子どもまで市民に幅広く利用される公園の研究
- 4Bグループ 市民・住民の参加・主体による個性的で豊かなまちづくり(2)
- 4Cグループ 市民による金沢文化の継承と発展 II  
～地域における文化体験学習/教育を考える～
- 4Dグループ 北陸新幹線の開業を見据えた金沢型クリエイティブ産業の振興  
～現代アート・ファッション都市・金沢～
- 4Eグループ 知識社会への情報戦略と産業政策
- 4Fグループ 金沢らしい介護保険と「地域密着型サービス」のあり方考える
- 4Gグループ 金沢アートセンター計画
- 4Iグループ 人と自然にやさしいまちづくり・「コンパクトシティ」を目指して  
～安全で快適な自転車交通と自然エネルギーの研究～

(注) 報告書は各グループ毎の分冊となっています。

## 目次

1. はじめに	1
2. 研究・調査内容と提言	
(1) 歳時記	7
(2) 水の模型と加賀の水ファンタジー	14
(3) 絵馬	22
(4) 文化体験	27
(5) 国際交流	31
(6) 伝承	37
3. まとめ	42
4. 資料	45
5. 活動状況	47
6. 活動メンバー	48

## 1. はじめに

私たち4Cグループの研究の方向性は、第3期の研究テーマ「市民による金沢文化の継承と発展 ～地域における文化体験学習／教育～」を引き継ぎながら、その研究をさらに深めるとともに、文化体験学習／教育の具体的な展開方法（実践）についても検討を進めていくこととした。

ついでに、文化体験学習／教育の実践の場として適切な施設が市内にないかを調査・検討してみた。ちょうど、玉川図書館隣接地の日本たばこ産業株式会社金沢支店跡にて開設する玉川こども図書館（仮称）が、子どもの読書活動の総合的な拠点として整備される計画があったが、この玉川こども図書館（仮称）の整備基本方針において、その機能のひとつとして地域学習やふるさと教育の体験学習プログラムを実施するということが掲げられており、この玉川こども図書館を金沢市の伝統文化<sup>1</sup>の体験学習／教育の場と想定して研究を進めていくこととした。

研究内容は各研究員の問題意識に基づいて、「歳時記」、「水の模型と加賀の水ファンタジー」、「絵馬」、「文化体験」、「国際交流」、「伝承」の6テーマに取り組んだ。

## 地域の伝統文化を子どもに伝えること

### 1. 地域社会にとっての意義

私たちは、昔から伝わる文化遺産や歴史から多くのことを学び、今の豊かな暮らしを享受している。

地域の伝統文化を伝えていくということは、遠い昔の人々と、現在に暮らす人々、未来に生きる人々をつなぐことであり、人間の生活、社会の存続・発展に不可欠な行為であるともいえるだろう。

私たちの住む金沢市では、長い歴史の中で個性的な伝統文化が育まれてきた。子どもたちが、金沢市の、あるいは自分たちの住む地域の伝統文化を学び、体験し、守り伝える活動を行うことは、金沢市や地域の伝統文化に親しみを覚え尊重する心を涵養し、郷土への誇りを育むことになり、金沢市の未来を担う人材を育成するうえでも意義のあることであるといえよう。

さらに、街に伝統文化が息づくことは、地域の魅力を高め、市民の生活を豊かにするものであり、将来にわたる文化的土壌の醸成に資するものである。

<sup>1</sup> 本報告書での「伝統文化」とは、伝統工芸、伝統芸能、年中行事、民俗文化、食文化などを含む意味で使用している。

## 2. 子どもにとっての意義

伝統文化を継承していくということは、前に述べたようにその活動自身が価値のあることであるが、子どもたちにとっては、その活動を通し地域への関心を高め、地域の一員としての自覚を持ち社会をよくして行こうとする意欲や心構えを育むことにつながるだろう。また、先人たちが築いてきた伝統文化に触れることで驚きや畏敬の念をいだき、子どもの中に多様な価値観を生み、子どもの中から創造性を喚起するなど、子どもの成長にも有意義なことであるといえる。

## 3. 各方面での取り組み

伝統文化を子どもに伝える活動が、現在は、どのように行われているかを調べてみたところ、次のように学校や公民館、児童館をはじめとする各方面の施設、団体で行われていることがわかった。

### (1) 学校教育

#### ①基本的な方針など

金沢市教育委員会では、伝統文化・民俗芸能の継承・発展を図りながら新しい市民文化の創造に努めることを教育努力目標とするとともに、「金沢市21世紀学校教育ビジョン提言『地域で育て、地域を育てる学校』」において、金沢の恵まれた自然、歴史に育まれた伝統文化、優れた食文化、活発なコミュニティ活動などの個性を生かした教育を充実することや、金沢の歴史文化に関する施設などを積極的に生かした教育を充実することなどを掲げており、学校教育での伝統文化継承を重要な教育施策とし、学校現場での展開を推進している。

#### ②全市的な取り組み、モデル校など

古くから能楽の盛んな金沢市の土地柄から、昭和24年から全中学校（3年生）を対象とした「観能教室」を実施し平成19年で59回目となっている。また、小学校連合音楽会、中学校連合音楽会も長い歴史を有しているが、地域伝承の和太鼓演奏などもプログラムに入っている。

国のモデル校として、「我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践も出る地域文化事業」や、金沢市の指定校として「地域文化の再発見及び継承推進事業」が行われている。

また、近年は食文化をテーマとした「健康教育推進実践事業」「加賀野菜を取り入れた『食生活』推進事業」なども実施されている。

#### ③小中学校での取り組み方

小学校低学年において「地域調べ」として自分たちが住む町を調べる活動からはじめ、

3、4年生では社会科副読本「のびゆく金沢」、高学年では「子ども金沢市史」をテキストとして金沢の歴史や産業などとともに伝統文化も学び、市内の文化施設などを見学している。

中学校では、先に述べた3年生の「観能教室」のほか、2年生では、生徒が班別に分かれて市内各所や歴史文化施設などを巡る「金沢散策」を実施している。

各学校では、学校の地域（校区）に関係の深い伝統文化を学校教育に取り入れているところが多い。加賀友禅、和菓子、金箔（箔）、水引などの職人を招いての体験学習や、地域の伝統的な芸能である太鼓や踊りなどを総合学習に取り入れている学校がある。

これらの活動には、加賀染振興協会、金沢仏壇商工協同組合、金沢市民謡協会などの団体が協力しているほか、地域の人たちを伝統文化を指導するゲストティチャーとして招いて実施している。

また、教育委員会と中央卸売市場、保健所が連携し、加賀野菜を使った「食教育」推進事業を実施するとともに、地元で加賀野菜を特産品としている地域の学校では、社会科、理科、総合学習の授業のなかで取り入れている。

## (2) 行政

[金沢市関係]

### ①伝統芸能（能楽、素囃子）体験

国際文化課が能楽美術館などを会場に「加賀宝生子ども塾」「金沢素囃子子ども塾」を実施している。

能楽美術館独自で「夏休み親子能楽体験教室～狂言に挑戦～」を実施している。

### ②はしご登り体験

消防訓練場等にて、加賀とびはしご登り保存会の指導によって「金沢子どもはしご登り教室」を実施している。

### ③食文化の体験学習

保健所にて、「おやこの伝統食教室」として加賀料理を使った郷土料理調理実習を行っている。

また、農業センターにおいて、「親子で学ぶ、金沢の食」として伝統的な金沢の食文化についての講義や調理実習などを実施している。

### ④地域の民話を聞く体験

歴史建造物整備課では、湯涌・茅葺き農家を会場にして湯涌地区の民話を聞く会を実施している。

### ⑤伝統文化体験

生涯学習課のK-KID(子ども社会体験クラブ)にて、和菓子づくりや金箔張りなどの体験を行っている。

### ⑥伝統文化（茶道）の体験

中村記念美術館にて、「親子で楽しむ茶道入門」を開催している。

### ⑦伝統工芸の体験学習

安江金箔工芸館にて、「金箔絵づくり体験教室」を開催している。

卯辰山工芸工房にて、漆工芸、金工、染め物などの教室を開催している。

### ⑧金沢に伝わる子ども文化の展示や遊び体験

金沢くらしの博物館にて、「雛祭り展」の開催や、「昔の遊び大集合」を実施している。

[石川県関係]

### ①昔の遊び体験

石川県立生涯学習センターにて、「日本の遊び文化教室」として小学生とその家族を対象とした行事を開催している。内容は、昔の子どもの遊びとしてあやとり、お手玉、竹とんぼなどとともに旗源平など金沢固有の遊びも行う。

### ②能楽体験

石川県立能楽堂にて「子供謡曲教室」「子供狂言教室」などを開講している。

### ③伝統芸能体験

(財)石川県音楽文化振興事業団により「ふれあい伝統芸能ランド」を開催している。

箏、琵琶、能楽、狂言、落語、日本舞踊などをワークショップで体験するもので、ほとんどの講座が小学生から受講可能である。

## (3) 地区公民館、地区児童館

地区公民館では、地域に伝わる踊り、獅子舞、太鼓、民謡などを子どもに伝える事業や、昔の遊び体験や地域の民話、言い伝え、地名の由来などを語り伝える事業などが行われている。子どもを指導する人や講師には、高齢者を含めた地域の人たちが当たっているケースが多い。

地区児童館では、主に年中行事を通じたかたちで子どもに伝統的なことを経験させているが、地域の太鼓や言い伝えを子どもに伝える指導も行っている。

#### (4) 大型児童館

##### ①城北児童会館

「三世代金箔体験」(小学生と祖父母、小学生と父母対象)「あそびはじめ～旗源平～」  
「昔の遊び」(百人一首など)などを開催している。

##### ②石川県立中央児童会館

「たなばたわーど」「ねえ、ねえ聞かせて むかーしむかしのおはなし」などを開催している。

#### (5) 大学

金沢大学「いしかわ金沢学子ども体験塾」

留学生や日本人学生、地域の人たちを対象とした金沢や日本の伝統文化に触れる体験学習プログラム「いしかわ金沢学」の子ども版。

内容は、「和菓子作り」「邦楽」「能楽」「生け花」「剣道・杖道」などの体験。

#### (6) その他

##### ①「かなざわまち博」

金沢市中心部を博覧会場に見立て、各種の行事を行っているもので、平成12年夏から始まる。平成18年度「子ども屋台大学」、平成19年度「夏休み子ども特集」の中で、子ども向けに金沢市の歴史や伝統文化を学習、体験できるプログラムを実施している。

##### ②「金沢子ども伝統芸能音楽祭」

石川県音楽文化協会、石川県三曲協会の主催で平成15年より県立音楽堂を会場にして開催。石川邦楽児童合奏団、金沢邦楽アンサンブルジュニアなどが出演する。

石川県音楽文化協会では、「いしかわの子ども邦楽教室体験講座」などの活動も実施している。

このように、学校や行政、諸施設・団体などでは伝統文化を学び、体験し、守り伝える活動が実施されてきている。それらのほか町会、子ども会、幼稚園、保育所、あるいは寺社などにおいても活動がなされている。

#### 4. 地域の人たちの力

伝統文化は祖父母や両親から子・孫へ、年長の子どもから年少の子どもへと、つまり人から人へ伝わるものである。しかし、わが国では昭和30年代からの高度経済成長のもと、急速な都市化、核家族化、少子化により、人から人に伝えるべき知識や技能が途切れてしまい、今の子どもたちの親世代では地域の伝統文化を子どもたちに伝えることが難しいこ

とになってきている。

このように、家庭において伝統文化継承が望めなくなっている状況のもと、学校や行政などが、伝統文化を子どもたちに伝えるきっかけをつくり、伝える場を設けるようなことが必要となってきている。

ここで大切なことは、伝える人であろう。伝統文化についての知識、技能を持つ地域の人たち、特に高齢者の力を借りることが有効であると考え。先に述べたように、学校や公民館では地域の人たちや民間団体の力をうまく活用しており、今後も伝統文化伝承のため、学校、行政、諸施設と地域との連携が不可欠である。

経験豊かな高齢者をはじめとする地域の人たちが、地域に伝わる文化、行事を実演し、子どもに教え、語り継ぐなどを行うことにより、世代を越えての触れ合いと交流が促進され、地域コミュニティの形成にも一層役立つのであろうと思われる。

## (1) 歳時記 「金沢伝統文化子ども歳時記」

菅村 美知子 ・ 山本 幸恵

### 1. はじめに

子どもに対して地域文化を伝承し継続発展させていく取り組みは、成長過程における教育、健全で豊かな心を育てる目的で、金沢市内における様々な機関がすでに始めている。

しかし、今度新設される金沢玉川こども図書館（仮称）は、金沢の旧市内の真ん中に近く、子どもが安心して来館できる良い環境の場所にあり、隣接する金沢玉川図書館の来館者が市内にまんべんなく幅広い地域から利用されているとの報告がある。このことから、さらに多くの子どもたちへ図書館機能と同時に、物語と関連した金沢の旬（節目）の伝統文化子ども歳時記を、常時、何度でも体験学習できる機会をあたえ続けることが出来るという特長を持たせられる室内・野外のスペースがあり、その特長こそ他機関との大きな違いであり、今後、金沢玉川こども図書館（仮称）の企画運営に期待する所につながるのである。

このスペースを有効に活用し企画運営を提案する「金沢伝統文化子ども歳時記」は、金沢の伝統文化を低年齢の子どもの中から物語りと共に体験学習に触れさせ、郷土としての金沢の暮らし・生活に根付く季節感や心の豊かさと潤い、さらに創造性を育てる目的を持っている。

I T ネットや流通が盛んになり、ともすれば町で暮らす生活感が平たんで特長や季節感が希薄になりつつある中で、金沢の四季折々の暮らしに旬を彩る子ども歳時記は、金沢特有の信仰からくる子どもへの愛情と願いがこもる郷土玩具、遊び、祭り、行事、体験を通して、日常生活に土着し先祖代々から受け継いだ精神的文化や人生を学ぶ機会であり、人それぞれの違いがあっても、金沢っ子・金沢人として心の原風景や誇りにもつながる拠り所として、良きものを伝承し発展させて行く意義がそこにはある。

金沢は加賀城下町として、他県の城下町と比べても唯一、一番多く町民の民俗文化が今に残っている日本の誇れる都市である。近代化洋風化の荒波に埋もれることなく、その努力を担う一端として「金沢伝統文化子ども歳時記」でありたいと考える。

### 2. 運営について

「金沢伝統文化子ども歳時記」を実行するためには、多くの手が必要である。NPO や市民のボランティア等の運営組織の構築が必要である。金沢 21 世紀美術館ボランティア組織の前例はあるが、その良い点悪い点を検討し、金沢玉川こども図書館（仮称）にふさわしい、最良の組織運営を考えることが今後の課題として大切である。また、必要な図書知識や金沢学等といった研修を実施しふさわしい人を育てることも必要であり、金沢の昔を語る語り部グループを発掘し、育成することも大切である。

### 主な企画（案）

1. 子どもと学生・若者との交流ができる場の企画  
高峰氏や八田氏等偉人の功績を踏まえ子どもたちに科学との出会いの場を作る。
2. 子どもと老人との交流ができる場の企画  
昔からの知恵や礼儀も含め歴史・文化・民俗等の昔の語り部として、交流する。  
金沢の町のいわれ、橋のいわれ、用水のいわれ、お寺のいわれや民話、昔からの聞き語り民話、昔の子どもの遊びや暮らしの話し等々の伝承。
3. 子どもと外国の子どもや大人との異文化交流ができる場の企画  
国際交流を互いの地域の伝統文化を通して知っていく機会にする。
4. 金沢の礼儀作法やふるしき包みなど知恵を学べる場の企画
5. 昔話と伝説のDVD化  
書籍「金沢の昔話と伝説（金沢市教育委員会 金沢口承文芸研究会）」のような、すでに聞き取りされたものを DVD 化し、触れる機会を増やす。  
またそれ以後の人にも聞き取り調査を行い、集積したものを書籍とDVD化し後生に伝承していく。
6. 伝承されてきた金沢の昔の遊びの書籍化、また再現によるDVD化  
戦後 60 年、金沢で伝承されてきた子ども遊び、室内遊び、野外遊びをまとめ、後生に伝える時期にきている。
7. 昔の遊び道具づくりの体験企画  
市民からの提供や協力を得て収集し、郷土玩具、昔の遊び道具を常設展示および子どもたちの体験企画を実施する。
8. 金沢にゆかりのある民話や伝説や児童文学の常設コーナーを設置
9. 金沢の伝統技術にふれる細工所場をもうけ創作体験を企画  
箔工芸、手書き加賀友禅、加賀蒔絵、毛針、二俣和紙すき、郷土玩具づくり、加賀刺繍、水引細工、竹工芸、和菓子、等々。  
これら技術を使った例として、  
北前船づくり、二俣和紙の凧やミニうちわづくり、伝承おり紙やこま回しなど昔の遊びづくり、加賀おもちゃ張り子の虎（中島めんや）等や加賀お面や旗源平づくりなど、昔の防災火の見櫓、梯子、ミニ提灯づくり、絵馬づくり、双六、福笑い、わら細工、和菓子づくりとお茶や俳句、からくり物づくり、等々。  
子どもが遊び道具をあたえられるのではなく、自らの手仕事で作って遊ぶことに重点を置くことで、物づくりの原点に触れるこころを養う一つの機会になると考える。
10. 伝承季節のお話しと四季のおり紙体験
11. 子ども（高学年以上）本の装丁や修理の体験
12. 子どもの自由創作表現（絵本や紙芝居の製作と演じるなど）体験
13. その他

金沢伝統文化子ども歳時記

歳時記		図書館での企画内容	
1 月	お正月	初詣・お雑煮・ かつとく 福德辻占	体験 かつとく 福德、辻占づくり
		お正月遊び	体験 旗源平、かるた、羽根つき、百人一首、双六遊び等々
		体験 郷土玩具づくり 干支の張り子等	
	加賀万歳	体験 万歳の話しや衣装など着てみる	
	出初め式、左義 長	体験 昔の火消しの話しや加賀鳶はしごのぼり体験	
		展示・話 天神堂展示、まつわるお話し	
	七草の節供	七草粥	展示・話 七草展示、まつわるお話し
	大寒	寒糊づくり、か きもちづくり	体験 寒の話しと科学と糊づくり
		寒修行	お話し 寒修行のお寺さんと町民の暮らし、まつわるお話し

歳時記		図書館での企画内容	
2 月	節分	立春、豆まき	展示・話 色々な節分を展示
			体験 張り子のお面、八幡起き上がりこぼし等づくり
			体験 二俣和紙漉き、和紙細工
			体験 昔の玩具遊び
			体験 水引細工
	ねはんえ 涅槃会	ねはんだんご	展示・話 金沢のお寺さんからのお話し

歳時記		図書館での企画内容	
3 月	じょうし 上巳の節供	桃の節供、ひな 祭り	展示・話 ひな壇、郷土玩具、まつわるお話し
			展示・話 安井さんの花車展示とぬり絵、まつわるお話し
			体験 郷土玩具づくり たちびな、たちこさん、おじゃみ等
			体験 金花糖の話し、桃の節供の和菓子づくり
			体験 昔のこども遊び
	お彼岸		お話し 金沢の暮らしと民話、

歳時記		図書館での企画内容		
4 月	花見	体験	お花見団子づくり	
	春祭り	体験	獅子やぼうふり、お囃子体験	
		展示	加賀獅子頭	
		お話し	今昔の子どもと祭り、まつわるお話し	
	人形供養	鬼子母神を祀 る真成寺	展示・話	郷土玩具や人形
			お話し	子どもの誕生にまつわるお話し

歳時記		図書館での企画内容	
5 月	たんご 端午の節供	菖蒲の節供、菖 蒲湯	展示 金沢の端午の節供の展示
			お話し 節供のいわれ、まつわるお話し
		体験	ちまき・端午の節供の祝和菓子づくり
		体験	鯉のぼりづくり、武者人形の鎧を着てみる
		体験	昔のこども遊び
		体験	金沢城のお話しと石細工

歳時記		図書館での企画内容	
6 月	百万石祭り	前田利家行列	展示・話 子どもにわかる加賀藩の歴史と暮らしの展示とお話し
			体験 加賀友禅や和紙などで子ども灯ろう作り
			体験 武士、奴、姫などの衣装を着てみる
			体験 百万石祝い和菓子づくり
			体験 昔の子どものたしなみ、礼儀作法とお茶
			体験 金箔細工、加賀蒔絵
	梅雨		体験 てるてるぼうずやしゃぼん玉づくり（科学）とお話し

歳時記		図書館での企画内容	
7月	賜氷節会	氷室	展示 昔のくらし
			お話し 氷室のお話し、昔の食の保存とくらし
			体験 五色饅頭づくり
	しちせき 七夕の節供	たなばた 七夕	体験 七夕飾りづくり、家の前に掛けた提灯づくり
	夏休み		体験 昔のこども遊び
			展示 辰巳用水や水について展示
			展示・話 辰巳用水など金沢の水のおはなし

歳時記		図書館での企画内容	
8月	盆踊り		体験 金沢の盆踊り、まつわるお話し
	地藏盆		展示・話 お地藏さんにまつわるお話し
			お話し 昔の民話のお話し
			体験 昔のこども遊び
			体験 貝殻で加賀細工

歳時記		図書館での企画内容	
9月	ちようよう 重陽の節供	菊の節句	展示・話 節供のいわれや、まつわるお話し
	秋祭り		お話し 今昔の子どもと祭り、まつわるお話し
			体験 昔の玩具遊び
	十五夜	お月見	体験 影絵と短歌
	お彼岸	七つ橋渡り	お話し 金沢のくらしと民話、まつわるお話し
			体験 おはぎづくり

歳時記		図書館での企画内容	
10月	秋祭り	獅子舞、お囃子	体験 獅子やぼうふり、お囃子体験
			体験 お祭りのおしばな提灯、行灯づくり
			体験 お祭り和菓子づくり・短歌
			体験 昔のこども遊び
			体験 落ち葉・木の実加賀細工

歳時記		図書館での企画内容	
11月	七五三参り		体験 七五三祝い和菓子づくりとお茶・俳句
	ほうおんこう 報恩講	お講	お話し 金沢のくらしと民話、まつわるお話し
			体験 加賀友禅型染め
			体験 昔のこども遊び
	雪吊り		体験 わら細工等

歳時記		図書館での企画内容	
12月	針供養	針歳暮（はりせんぼ）	お話し 針供養や冬至など、昔からの冬のくらしのお話し
	冬至		体験 昔の子どものたしなみ、礼儀作法とふろしき包み
			体験 昔の玩具遊び
	歳の市		体験 お正月さんの宝船づくり、まゆ玉づくり等
	除夜の鐘		体験 郷土玩具 絵馬・加賀だるまづくり等



## 参考文献等

- 金沢の風習 著作；井上 雪  
昔の十二月城下町金沢の年中行事 著作；金沢玉川図書館藩政文書を読む会  
こども金沢市史 著作；こども金沢市史編さん委員会  
金沢の昔話と伝説 著作；金沢市教育委員会・金沢口承文芸研究会  
七百二十日のひぐらし 著作；木倉屋榎荘氏  
郷土玩具のはなし 小林輝治氏講演（金沢湯涌夢二館館長）  
金沢の民俗 小林忠雄氏講演（北陸大学教授）  
図書ボランティア 玉川図書館講座

## （２）水の模型と加賀の水ファンタジー — 蛇水芸 —

中川 武夫

### 1. はじめに

金沢は、水の都と呼ばれることがあるほど豊かな水が街のいたるところを駆け巡っている。この水源は、近くは大日山、医王山などであるとしても、白山というべきであろう。男川の犀川、女川の浅野川を主流として、これら二流を繋ぎ合わせるかのように、辰巳、鞍月、大野庄の三用水が街の中心部を巡っている。特に、辰巳用水は、犀川の上流、東岩において、犀川右岸より取水された水が約 10 キロメートル導かれた後に名勝・兼六園、金沢城を経て、市街地を貫流し、浅野川または下流の田園地帯へ流れ去っている。

古人は、金沢の豊かな水を単に生活のために用いただけではなかった。水から彼らが影響を受けた分野は実に多岐に亘っていたのである。例えば、文学、音楽、絵画、織物、陶器、人形、茶道、華道、信仰などに対して、水の与えた影響は計り知れない。

本研究の主な目的は、水の有する無限の可能性の中における特性の一つ、蛇行性に焦点を絞って、その実用的観点から「蛇水芸」モデルを設計・製作し、その特徴を明らかにすることである。

### 2. 蛇行

川が蛇のようにうごめいて地表を削り取りつつある状況は、ウクライナ共和国、カナダ・アルバータ、オーストラリア・ニューサウスウェールズ州、ニュージーランド、中国、日本、東南アジア、アフリカ、イラク、アメリカなどの上空を飛行してこれらの大地を観察すると良く理解することができる。こうした観察結果に基づいて蛇行の素因を考えると、川の蛇行が何か抗し難いような圧倒的な力によって支配されている可能性を否定し難くなってくるのである。

古来、川の蛇行素因については正に、百家争鳴の様相を呈している。土砂移動、コリオリ力、熱対流、流水の乱れ、流れと河床・堤防との干渉などが蛇行素因として提案されてきた。しかしながら、これら程度の蛇行素因で、ナイル、チグリス・ユーフラテス、インドス・ガンジス、黄河・揚子江、コンゴ、アマゾン、ミシシッピーなどのような巨大な河川形状を変えることができようとはとても思えないのである。

ところで、流れが蛇行するのは川の中のそのみに必ずしも限定されるものではなく氷上、岩盤上、そして滑面上の流水に加えて海流やジェット・ストリームまでもが蛇行することが今や明らかにされている。このように考えてみると、当然の帰結として「流れあるものすべて蛇行する」という何か摂理のようなものが流れの中に潜んでいるのではないかと思えてくるのである。

著者ら（Nakagawa & Scott 1984）は、アクリル板の上を流れる流水中の流れを有色インクを用いて可視化することによってアクリル板と流水との間に形成される二本の接触線

が互いに平行、すなわち流水外形がほぼ直線であるにもかかわらず、非定常な擾乱に加えて流水内部に三次元で螺旋状の流跡線、すなわち流心が存在していることを明らかにしている。ここで、流心とは流れの横断面内における最高速度点の軌跡をさす。一方、Bower & Rossby (1989)は、蛇行しつつ北米東海岸の沖を北上して流れるガルフ・ストリーム(Gulf Stream)中における定密度フロートの三次元運動軌跡から、この海流内部にも流心の蛇行パターンが存在することを報告している。

柘植は、自らが構築した独創的な乱流統計理論において、二種類の本質的に性格の異なる乱れとして、ケオティック(chaotic)とコヒーレント(coherent)なそれを挙げているが、自然界に横溢する流れの蛇行性を考える時、流心の蛇行パターン、すなわち「コヒーレントな非定常乱れ」こそ、最も普遍的な蛇行素因であると考えられる。

ところで、柘植の相関方程式 (Tsuge 1984) を変数分離した時に得られる速度に関する従属変数  $q_j$  ( $j=1, 2, 3$ ) を支配する偏微分方程式は次のように表される。

$$\begin{aligned} (\partial / \partial t + u_r \partial / \partial x_r - \nu \partial^2 / \partial x_2^2) q_j + \partial u_j / \partial x_r \cdot q_r + 1/\rho \cdot \partial q_4 / \partial x_j + \\ + \partial / \partial x_r \int q_j (\omega - \hat{\omega}) q_r (\hat{\omega}) d\hat{\omega} = i \omega q_j (\omega), \end{aligned}$$

ここで、 $t$  : 時間、 $u_r$  : 速度、 $x$  : カーテン座標、 $\nu$  : 動粘性係数  $q_4$  : 圧力に関する従属変数、 $\rho$  : 密度、 $\omega$  : 振動周波数、 $\hat{\omega}$  :  $\omega$  と異なる位置における振動周波数、そして  $i$  : 虚数である。この方程式は、二種類の時間依存性を有していることが特徴的である。すなわち、 $\partial / \partial t$  と  $i\omega$  についてである。前者： $\partial / \partial t$  が、コヒーレントな非定常乱れを示し、後者： $i\omega$  がケオティックな乱れを表している。これは、柘植の乱流理論から導き出された最も重要な知見の一つであるので、飛躍が過ぎることを承知で、ここに敢えて引用した次第である。

### 3. 蛇水芸モデル

加賀の水芸と言えば、すぐ頭に浮かぶのが滝の白糸であろう。ここで、水芸とは、水芸人の手から繰り出される幾条もの水ジェットが互いに交差しながら白い水の軌跡を描くことで、見る者をしてその巧みな水さばきに対し感興の気持ちを引き起させる芸である。泉鏡花の筆で描かれた「義血侠血」は、高岡・河原町から石動を経て、古都・金沢を流れる浅野川に架かる梅の橋、兼六園を背景にした雅やかな恋愛小説である。すなわち、この小説において法官志望の青年・村越欣弥と水芸人・滝の白糸との間に展開される貫き通すべき男女の真摯な愛とそこに立ちはだかる超えがたい障害、深き溝、そして浮世の義理と人情があたかも万華鏡のごとく入り乱れ、かつ織り成されている。

白糸の水芸は三次元的であることが特徴であるが、本研究においては二次元の水芸として、滑らかな面上を流れる複数の水が織り成す干渉模様の特徴を明らかにすることとする。

図1に蛇水芸モデルの全体図を示した。蛇水芸の対象滑面は縦200mm、横300mm、傾

斜角45°である。滑面の背面には、縦10mm横10mmの正方形格子溝が流水現象の基準スケールとして削り込まれている。全ての水吐出口の内径は2mm、外径4mmである。循環用水中ポンプ(定格電力8W)によりモデル下部に設置されている貯水槽に満たされた水が汲み上げられ、多岐管を経て8本のビニール管(内径4mm、外径6mm、全長2,070mm)に分水されて、滑面上縁に取り付けられた8個の真ちゅう製水吐出口に至る。各水吐出口から流出する水の流量は、水吐出口の手前15mmに取り付けられている流量バルブにより任意に調節することができる。

先行研究(Nakagawa 1982; 1992, Nakagawa & Scott 1984, Walker 1995, Nakagawa & Nakagawa 1996)より、滑面上の流水挙動は、流量、傾斜角、流体特性(動粘性係数、表面張力)、滑面長、滑面状態、滑面材質、気温、湿度などに依存することが明らかにされている。しかしながら、ここでは流水挙動の流量に対する依存性に限定して蛇水芸モデルを設計・製作した。

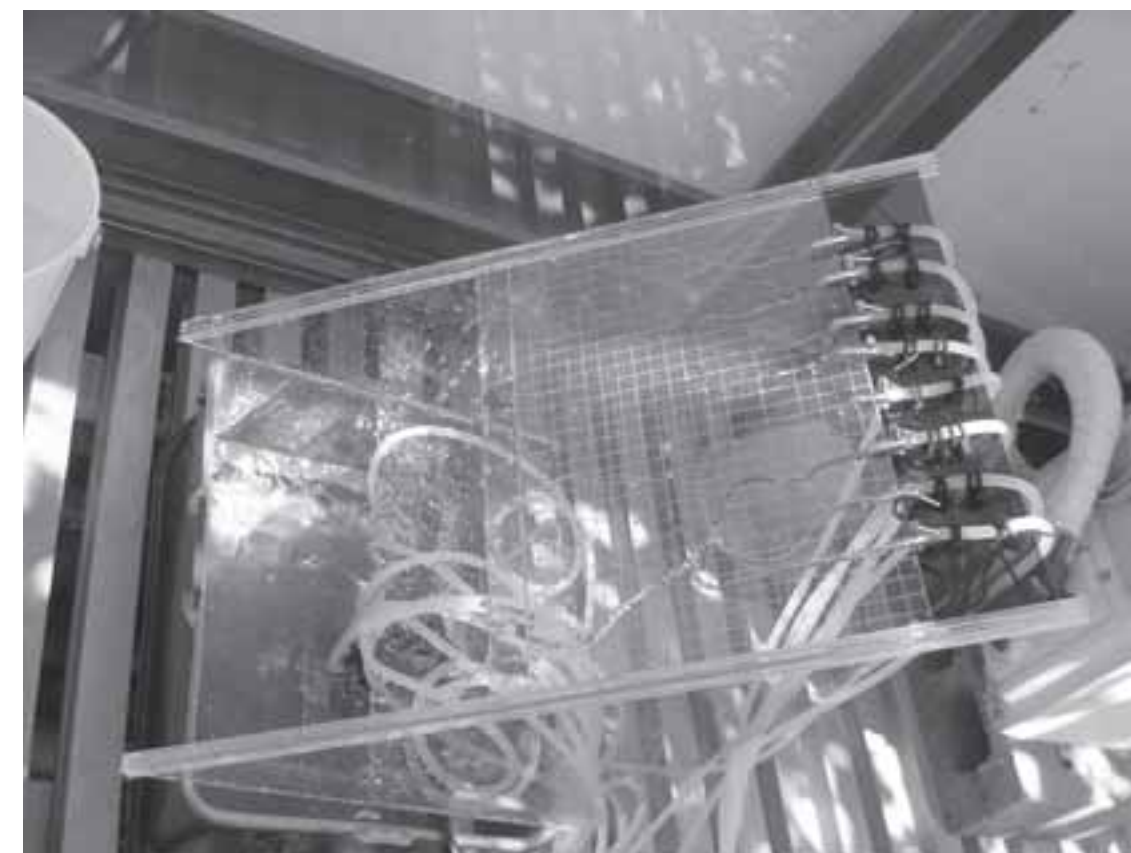


図1 蛇水芸モデル

### 4. モデルの機能

本モデルの機能は、水吐出口1,2,3,4,5,6,7,または8本を用いる場合ごとに異なることは当然であるが、ここでは、簡単のために1本と2本以上の水吐出口を用いる場合について

その機能を検討することとする。

水吐出口1本の場合：この場合には、先行研究によってすでに明らかにされているように流量の増加に伴って、間歇的な液滴状流下、安定直線状流水、安定蛇行流水、不安定蛇行流水、そして再安定数珠球状流水へと滑面上の流水がその流況を5種類にわたって変える。

水吐出口2本以上の場合：水吐出口が1本と2本の場合の本質的な相違は、後者の場合に互いに隣接する流水間の干渉がある場合にのみ表れる。すなわち、流水間の干渉が無い場合には、各吐出口ごとから流れ出す流水が独立に、個々の流量に対応した流況を示すことになろう。これに対して、2本以上の流水が互いに干渉する場合には、例えば、2本の流水の干渉の仕方は、各流水が上述したように5種類の流況、すなわち ${}^5C_1$ ケースの流況を示すので、合計 ${}^5C_1 \times {}^5C_1 = 5/1i \cdot 5/1i = 25$ ケースの互いに異なる干渉をする可能性がある。ここで、Cは組み合わせ (combination) を意味する。したがって、本モデルによって現出可能な流況は合計 ${}^5C_1 \times {}^5C_1 \times {}^5C_1 \times {}^5C_1 \times {}^5C_1 \times {}^5C_1 \times {}^5C_1 \times {}^5C_1 = 390,625$  ケースにおよぶこととなる。

## 5. モデル・デモンストレーションの結果

図2は蛇水芸モデルのデモンストレーションの状況を例示した。この場合には、8本全

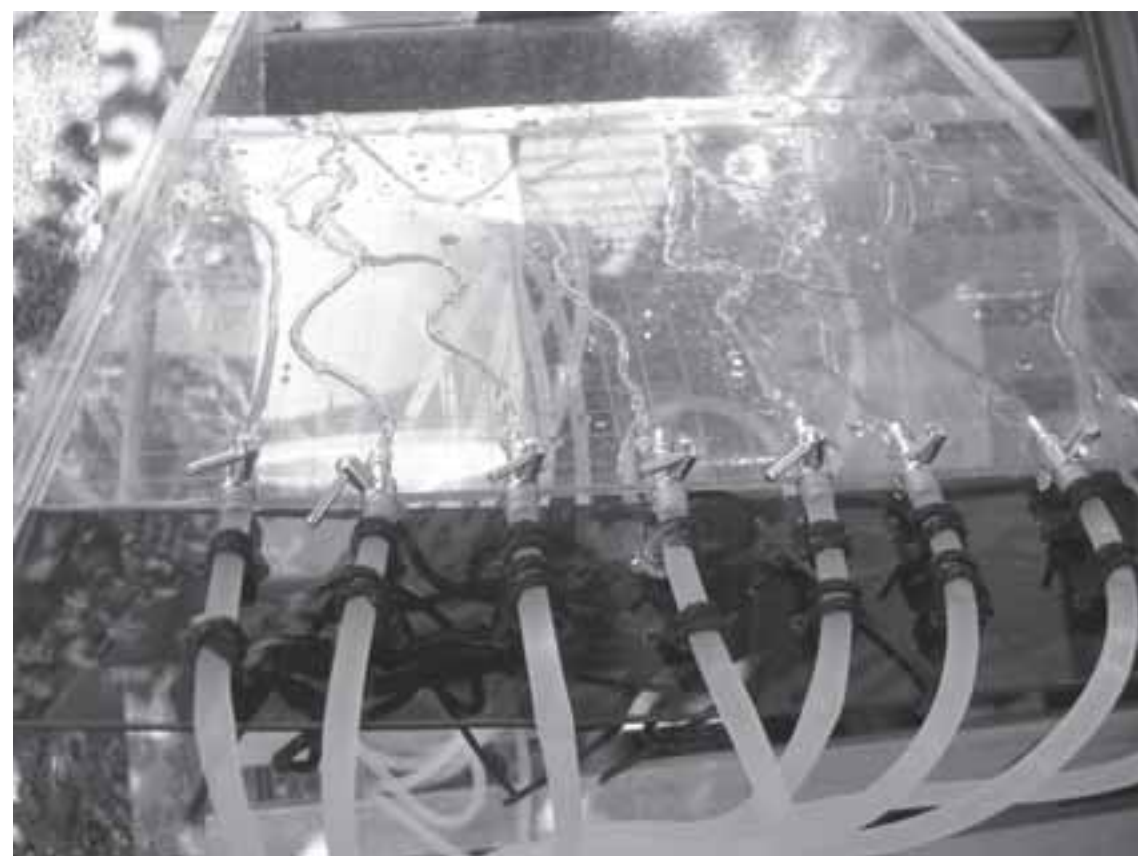


図2 蛇水芸モデルを上方より望む

ての水吐出口から水が流れ出されている。8本の流水は全て「不安定蛇行流水」の状態にあり、各流水が激しく左右に蛇行軌跡を変えながら、隣接する流水と合流、分岐、そして再合流を繰り返している。一方で、流水はこのプロセスの過程で滑面上に多くの水滴を残している事実も注目に値しよう。



図3 流水干渉、緩慢

図3は8本の流水全てが「不安定蛇行流水」の状態にあるものの、不安定の程度が弱いために相互の流水干渉が緩慢な場合の例である。これに対し、図4は8本の流水全てが「不安定蛇行流水」の状態にあり、かつ不安定の程度が強いために流水干渉が顕著な場合の例である。したがって、図4中において認められるように流水が互いに激しく干渉し合うことにより流水が合流、分岐、再合流、再分岐、分離を繰り返している状況を理解することができる。

## 6. 議論

金沢は、水の都として人口に膾炙して久しいものの、時代の移り変わりと共に用水は蓋をされ、廃棄され、あるいは水が地中の管路内を流されることなどにより、旅行者や市民

が水の流れと直かに接する機会はますます遠のきつつある現状を嘆かずには居られない。

## 凛として 百万石が 水の音

白風



図4 流水干渉、顕著

辰巳用水の水の質と量は、水都「金沢」復興の鍵を握っている。金城靈沢に代表されるように金沢はかつては伏流水の豊富な緑濃き街であったが、その水量は辰巳用水のそれとは比べものにならない。1632年の辰巳用水完成が事実上の水都「金沢」のスタートであったといっても過言ではなからう。ここで注目すべきは、水神・板屋兵四郎の水芸が水都「金沢」の形成に本質的な貢献をしていることである。例えば、犀川右岸、雉の取水口から約2キロの水トンネル掘削技術、用水床勾配（200分の1）の測定技術、兼六園・金沢城間の石川橋の地中に埋められ木管路を用いた導水技術、伏越の理（ふせこしのことわり）の応用（兼六園内にある日本最古の噴水、兼六園・霞が池から二の丸御殿前庭の池へ導水）などである。

水は、あらゆる器に従う柔軟性を備えている一方で、あらゆる器の形を崩す能力を備えているのである。水が有するこうした大いなる抱擁力の内にこそ、我われが水の秘めた可能性を引き出し得る余地が残されているわけである。

辰巳用水の水は、先祖から我われがすでに継承しているのであるから、これからはいかにこの水を有効に活用するかを考えるべきである。金沢中央公園や尾山神社周辺へ廃棄されて、干上がった用水路にもう一度、辰巳用水の清冽な水を導き、末の浄水場から兼六園までの地中に埋められた辰巳用水の送水管を掘起こし、蓋をした用水のそれを剥がし、先人が創造した水の都を再生すべきである。そして、さらに一歩進めて、本稿において提案したような水の更なる新しい可能性を探り、引き出す活動を積極的に推進することにより水の都、金沢の魅力を一層高めることができるのである。

## 7. おわりに

本研究を通じて明らかになった新たな知見は、以下のように要約することができる。

1. 流れの蛇行素因は、流れ自身の中にあるコヒーレント(coherent)な非定常乱れであることが示唆された。柘植(1984)の乱流統計理論により、陽表的(explicit)にこの乱れの存在が予測されている。
2. 二次元の水芸には、次のような特徴がある。
  - ・流水の蛇行性
  - ・流水間の干渉の多様性
3. 蛇水芸モデルの概念は水都・金沢の象徴として街のモニュメントやデザインに応用することが可能である。

水が有する無限の可能性、水のファンタジーの一端を、蛇水芸を題材にして、研究してきたが、検討すべき多くの課題を割愛せざるをえなかった。そこで将来の研究者の参考に供するために、残された研究テーマを提示して、本稿の結びとする。

噴水、水に関する玩具（水時計、ヘロンの装置など）、水道橋、用水、カナート(Qanat)、水に関する測定装置（流速計、流量計、粘度計、密度計、比重計、比熱計など）、流体力学実験装置、水琴窟など。

## 参考文献

- Bower, A. S., Rossby, T. (1989) Evidence of cross-frontal exchange process in Gulf Stream meanders based on isopycnal RAFOS float data. J. Phys. Oceanogr. 19, 1177-90
- Nakagawa, T. (1982) On role of discharge in sinuosity of stream on a smooth plate.

Naturwissenschaften 69, 142

Nakagawa, T., Scott, J. (1984) Stream meanders on a smooth hydrophobic surface. J. Fluid Mech. 149, 89-99

Nakagawa, T. (1992) Rivulet meanders on a smooth hydrophobic surface. Int. J. Multiphase Flow, 18, 455-463

Nakagawa, T.M.S., Nakagawa, R. Jr. (1996) A novel oscillation phenomenon of the water rivulet on a smooth hydrophobic surface. Acta Mech. 115, 27-37

Tsugē, S. (1984) Separability into coherent and chaotic time dependences of turbulent fluctuations. Phys. Fluids 27, 1370-1376

Walker, J. (1995) What forces shape the behavior of water as a drop meanders down a window pane? Sci. Am, 132-137

### (3) 真成寺所蔵 押絵の大絵馬「花車」について

安井 史郎

#### 1. はじめに

東山寺院群の中に鬼子母神を祭る真成寺がある。真成寺は日連宗の寺院であるが、隣接して鬼子母神堂があり、安産や子供の健康、子供を授かりたい人などのお参りが多い。

この鬼子母神堂にはいろんな絵馬がたくさん奉納されているが、ここで取り上げるのは、縦1間(1.8m)横2間(3.6m)の押絵の大型の絵馬「花車」である。この絵馬が奉納された経緯と絵馬に描かれた絵画の内容を調査し報告する。

#### 2. 押絵の大絵馬「花車」

##### (1) 絵馬奉納の経緯

絵馬の黒い額縁には「明治三十五年四月吉日、安井社中」とある。これはその頃、祖母安井占が裁縫の教え子たちと、制作し奉納した事を示している。

絵馬の画面は大きな花車を子供達が二本の紅白の縄を手で握り「ヨイショ、ヨイショ」と掛け声をかけながら引き揚げている様子である。この花車は子供にしては大きく重いのに坂道である。そして向う先は石垣の上にある鬼子母神堂である。実際に真成寺へお参りに、歩いて出かけてみると坂道の勾配が急なことが理解できる。

この画面は誰の「アイデア」に拠るのか、数年前に祖母の年譜から調査した事がある。結論は「祖母の考えを長男安井厚が描いたらしい。」のである。厚は当時15才の県立工業の学生であったものの、後に上野の美術学校で日本画科卒業の実力があつたのである。ここでいう上野の美術学校とは現在の東京芸術大学なのである。

絵馬そのものは、全て(桜の花一つも)が「押絵」の技法によって制作されていて、単なる絵画ではない事は祖母の「手造りの技術の力」を評価したく思っている。

現代では「鬼子母神信仰」の詳細を知る人は必ずしも多くないが、ここでは「子供を守る神様」とだけ記すに止める。絵馬に描かれた場面は「押絵」に使われた縮緬の布が日焼けして、色彩の判別が出来ない程、損傷していて残念な状況である。それで写真を元に、小生が描いた画面の白描画を紹介する。白描画を制作して興味深いのは子供達の姿でした。それは明治三十五年頃の風俗を表し、現代とは大きな差異があるからである。

##### (2) 絵馬の画面解析

押絵の画面の内容を、夫々に符号をつけ説明する。

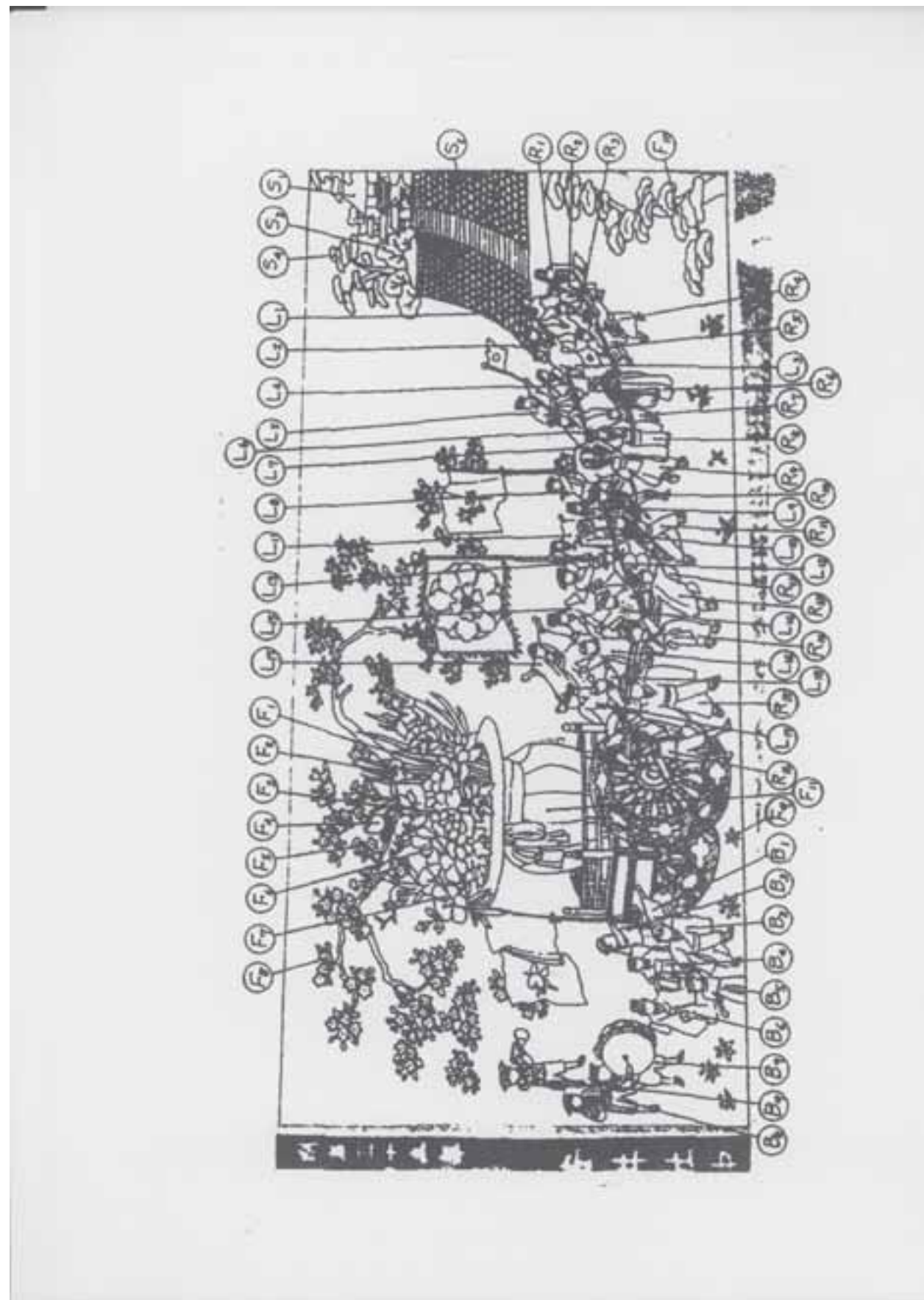
花はflowerのF、景色はsceneのS、右列の子供はrightのR、左列の子供はleftのL、後側の子供はbackのB、と表し小さく番号をつけた。

R<sub>1</sub> : オカっぱ頭で梅の花模様の振り袖を着て、紅白の縄を肩に掛けて引っ張る女の子

R<sub>2</sub> : オカっぱ頭で桜の刺繍のある振り袖姿の女の子、やはり縄を引いている。

R<sub>3</sub> : オカサ頭で縞柄の着物を着て綱を引く男の子。  
R<sub>4</sub> : 帽子を被り、菊の花模様の着物を着て、蝶結びの帯を靡かせ、靴を履いた男の子。  
右手で日章旗を掲げて「エイヤ、エイヤ」と声を張り上げ皆を激励している。  
R<sub>5</sub> : 帽子を被り、波の模様の刺繍された着物で、袴姿の男の子。日章旗を腰にさし、  
大股で力一杯綱を引く男の子。  
R<sub>6</sub> : 長い髪を垂らして紋付き袴で綱を引く、後ろ姿の女の子。紋付きには桜、袂には  
牡丹と金糸の唐草模様の刺繍がある。  
R<sub>7</sub> : オカサ頭に前垂れ姿で、草履を履いた男の子。  
R<sub>8</sub> : 稚児髪姿で、梅の花柄振り袖に帯揚げ帯締めもつけた娘さん。  
R<sub>9</sub> : 桃割れの髪を結び、赤地の振り袖姿の娘さん。振り袖には菊水模様の刺繍があり  
立被たてかぶきに結ばれた帯には藤の花模様があり、カッポリを履いている。  
R<sub>10</sub> : 赤い帯びの入った戦闘帽せんとうぼうを被り、黒い軍服姿の少年。両手で綱を引いている。  
R<sub>11</sub> : 帽子を被り着物に羽織り姿、草履をはき肩に綱を掛けて引いている少年。  
R<sub>12</sub> : 弟をおんぶして着物姿で綱を引いている、坊主頭の男の子。  
R<sub>13</sub> : オカサ頭に洋服を着て、おぶさる坊や。片手は花車の「てがら」に手を掛けている。  
R<sub>14</sub> : オカサ頭に梅柄の着物に前掛けをした女の子。帯は蝶結びになっている。  
R<sub>15</sub> : オカサ頭に長袖の着物姿、赤色の扇子をかざして声援を送る男の子。たもとは  
渦巻きの水の模様が刺繍がされている。  
R<sub>16</sub> : 錨付きの帽子にリボンを下げ、セーラー服姿の男の子。  
L<sub>1</sub> : 帽子のリボンをなびかせ、肩に綱を掛けて急な坂を引き上げる洋服姿の男の子。  
L<sub>2</sub> : オカサ頭で着物に羽織の姿で綱を引く男の子。  
L<sub>3</sub> : 帽子を被り縦縞のコートを着て、両手を広げて綱を引く少年。  
L<sub>4</sub> : 髪にリボンをつけ、帯を立被たてかぶに結んだ振袖姿の女の子。  
L<sub>5</sub> : 帽子を被り、筒袖の着物に袴姿で靴を履いた少年。左手で日章旗を翳し声援。  
L<sub>6</sub> : 稚児髪にリボンをつけ、桜模様の刺繍の振袖で赤色の袴を着て綱を引く女の子。  
L<sub>7</sub> : 髪は桃割れ、梅の刺繍の振袖、お七帯びで後姿の娘さん。  
L<sub>8</sub> : 錨広帽子を被り洋服姿の少年。鬼子母神の旗を翳して進んでいる。  
L<sub>9</sub> : 稚児髪にリボンをつけ、飾房付きの被布を着た女の子。  
L<sub>10</sub> : オカッパ頭で、松の刺繍が入り飾り房の付いた被布を着た女の子。  
L<sub>11</sub> : オカッパ頭にリボンをつけ、振り袖袴姿で声援を送る女の子。  
L<sub>12</sub> : 錨広帽子に大柄模様の筒袖の着物姿で綱を引く男の子。  
L<sub>13</sub> : 軍帽に唐草模様の刺繍入り洋服で、金欄の前掛けをつけ、唐草紋の旗を捧げ行進  
する少年。  
L<sub>14</sub> : 錨広帽子に洋服で右手を揚げ、左手で綱を引く男の子。  
L<sub>15</sub> : 髪は桃割れ、金欄の帯を立被たてかぶに結び振袖姿で声援を送る娘さん。振袖には梅の花  
模様の刺繍が有り、豪華なもの。

L<sub>16</sub> : オカサ頭で大きな前掛けをつけ、両手を揚げて声援を送る坊や。前掛けには豪華  
な花の葉玉くすだまが刺繍されている。  
L<sub>17</sub> : オカサ頭で長袖の羽織り姿、両手を広げて声援を送る男の子。  
L<sub>18</sub> : ねじり鉢巻きで、梅の花模様の着物を着た女の子。  
L<sub>19</sub> : 花飾りをつけた前後に長い錨付き帽子を被り、豪華な洋服で花車を引く男の子。  
B<sub>1</sub> : 帽子で着物姿の男の子。一生懸命に花車を押している。  
B<sub>2</sub> : オカサ頭で、菊ずくし模様の長袖の着物姿、草履を履き、弟の手をひく男の子。  
B<sub>3</sub> : 帽子の黒いリボンを後ろに垂らし、赤い洋服に渦巻き模様の刺繍入りチョッキを着  
て、鬼子母神の旗を捧げて進む男の子。  
B<sub>4</sub> : 桃割れに手絡をうけ、梅の花模様の振り袖姿の女の子。  
B<sub>5</sub> : 帽子を被り、立派な洋服で、兄さんに手を引かれる坊や。  
B<sub>6</sub> : 稚児髪にかんざしを付け、刺繍入りの黒緇子の帯を立被たてかぶに結んだ振袖姿の娘さん。袂たもと  
の刺繍は葉玉の模様。  
B<sub>7</sub> : 上の広い軍隊の帽子を被り、黒い上着に赤いズボンの楽隊員姿の少年。大太鼓と  
シンバルで演奏しながら行進している。  
B<sub>8</sub> : 同じ楽隊員姿の少年。小太鼓を演奏しながら行進している。  
B<sub>9</sub> : 同じ楽隊員姿の少年。ラッパを吹奏襲しながら最後尾を行進している。  
以上が合計44人の子供達の様子である。次に花と景色を調べる。  
F<sub>1</sub> ; 白色の牡丹 F<sub>2</sub> ; 紫色のかきつばた F<sub>3</sub> ; 赤色の牡丹  
F<sub>4</sub> ; 熟した柘榴ざくろ F<sub>5</sub> ; 柘榴の花 F<sub>6</sub> ; 桃色の牡丹  
F<sub>7</sub> ; 黄色のトロロアオイ F<sub>8</sub> ; 桜の花156 F<sub>9</sub> ; 地上のスミレ 9株  
F<sub>10</sub> ; 近くの老松 F<sub>11</sub> ; 花籠本体  
S<sub>1</sub> ; 真成寺の鬼子母神堂 S<sub>2</sub> ; 真成寺の石垣と石段 S<sub>3</sub> ; 満開の桜  
S<sub>4</sub> ; 松の大木(今は危険防止の為に伐採され姿を消した。)



### 3. おわりに

この大絵馬は明治35年に奉納されているが、当時の子供達の身に着けるものが全て絵として描かれ、押絵として立体的に制作されている。子供一人一人の様子を更に詳細に解析したいが、単語ひとつ捕らえても、現在では死語となっている語句が多く、解析時間が不足なので、今回はこの程度に止める。この作品は布地の色彩は「赤と黒」以外は退色が激しく、制作当時の色彩の再現は困難である。ただ花籠の盛られた花や花木は再現できるので、白描画に着色してみると別図のとおりで「素晴らしく綺麗な豪華な作品」とわかる。興味をおもちの方は、一度東山寺院群の中にある真成寺鬼子母神堂にお参りいただければ、ご理解願えると思う。

#### (4) 金沢文化の伝承

毛利 泰江・苗田 敏美

##### 1. はじめに

金沢には伝統文化・伝統工芸が今もなお暮らしの中に多く息づいています。この金沢文化を継承し発展させるためには以下のようなシステムを提案します。

##### 2. 金沢文化を継承し発展させるための文化体験学習

☆体験学習システムの構築（玉川こども図書館を通して）☆

3cグループからの提案に対して金沢市より提示していただいた回答では「スクールサポーター制度」を実施しているということであったが、実際にはそれがどれだけ教育現場で普及しているかという点を考えても、それだけで体験学習のシステムが構築されているとは考えにくい。

確かに金箔や加賀友禅、醤油造りなど、それが発展している地区の小学校には個人的に体験学習を請け負ってくれる技術者がいる。ところがそれはお孫さんがその小学校に通っているなどの「知り合い」レベルでなされている。同じ金沢市に住む子どもたちが同じ教育を受けることができるということは非常に大切な問題ではないかと考える。

金沢市の中心に位置する「玉川こども図書館」にて体験学習を展開できるものと考えれば、市民から求められているニーズにあわせたものが必要である。実際どのようなニーズがあるのか調査したところ、どこで体験学習がどのような方法でなされているかという情報を知りたい、そして人気のある体験内容は「和菓子」と「金箔」だった。

前回（3cグループ）の調査でも、体験学習を指導する側からも「和菓子」と「金箔」は体系しやすいという結果がでているので、それらについては和菓子店、金箔店、または各職人さんと協力し、それぞれの段階（小学生、中学生）に応じた教材を作成すればよいと考える。玉川こども図書館ではその情報を公開し、それを見た一般の方からの申し込みに応える、または学校単位での体験学習申し込みを受け付ける窓口が必要となる。たとえば、金沢市の生涯学習課にその窓口を置くなどすれば対応可能ではないだろうか。

その際には「同じ教育を」というコンセプトのもと、講師によって学習内容に開きがないよう、講師の登録制度や研修制度、教材開発などが必要となる。

きめられた時間内でどのような体験をさせるか、教材開発には技術者、有識者が集まり検討を重ねる必要がある。

#### ☆ 指導者アシスタント養成 ☆

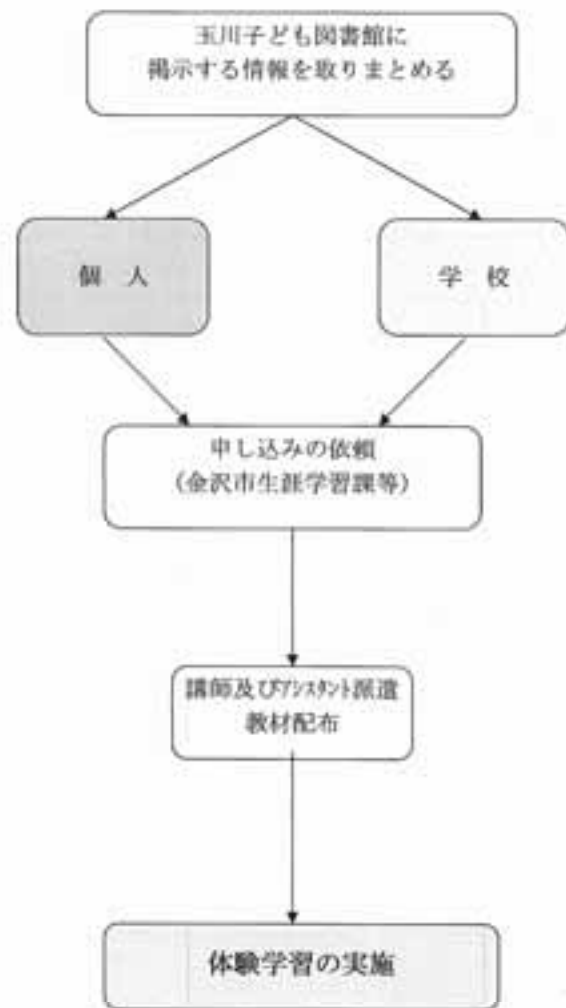
金沢に息づく伝統文化を初等教育（小・中学校）の時期に体験を通して学習することによって、潜在意識の中に日本文化を深く根づかせ、こどもたちに日本的感覚を自然と身につけさせることが重要だと考える。昔はわざわざそのような体験を行わなくても、祖父母からの話やしつけ、環境から自然と金沢的な感覚を身につけることができた。ところが、現代においてはそのようなコミュニティが失われ金沢の伝統文化に対し留学生よりはるかに無知な日本人学生が多い。そのため、ここでは感受性の強い初等教育の年代にこどもたちが金沢文化を学ぶより良い方法を探ってみた。

学校の教育現場において体験学習を行う際には1クラスあたりの人数がネックとなって学習指導を断念せざるを得ない状況になることもある。そこで講師及びアシスタントの人材が確保されることにより、ふるさと教育のためのプログラムが充実したものとなり得る。

職人さんのような何十年もかかって習得する技術ではなくあくまで講師のアシスタント（例えば、金箔なら箔と対象物をつなげるための接着剤を塗ったり、友禅なら染料を準備したり補充したりする）の役ができる程度のレベルまで養成するものとする。毎週1回程度、合計6回ぐらいそれぞれの伝統工芸、伝統芸能の講師についてその基本を学ぶプログラムを開発する。対象は金沢市内の大学生、短大生。

アシスタント自身も伝統工芸を学ぶことにより日本的な感覚を養うことができ、それをきっかけとして、彼らにその継承者へと発展していってもらいたいという願いもこめて体験学習時に必要なアシスタントを養成するプログラムをも提案する。





### 3. 恵まれた文化都市、金沢において教育を生かす

三重県にある五十鈴塾を訪れた。そこは、伊勢神宮の門前町として栄えた背景を持ち、金沢とはまた異なった趣の講座を開講している。伊勢という風土を生かしながら日本の文化を伝えていく、また暮らしの知恵として受け継がれてきた慣わしを身につけることを目的としている。

しかし、伊勢神宮前という好立地でありながらも、受講者の数が伸び悩んでいた。観光客は多いけれども地元の人々が通うための駐車場がなく、地元の受講者を確保できないのが現状である。また、五十鈴塾は「赤福」の資本で建てられおり、この援助なしでは運営していくことは難しいらしい。金沢市のように、市、教育委員会、学校などが連携して伝統文化を継承していこうという動きはなく、継続して安定した状態で文化活動が続けられ、文化を継承して行けるのは「金沢市」の文化を守る体制のおかげであることも理解することができた。五十鈴塾への参加費、体験料が金沢におけるこれらの費用と比較して高額であったことから、金沢市の文化行政によって体験学習の受講費用を低く抑えることが可能となっていることもわかった。

このように、金沢には素晴らしい伝統文化が数多く残されているのみならず、それらを継承するために市全体で取り組んでおり、そのための場所も提供され、何よりも継承していきたいという専門家の意識が高い。このような、恵まれた文化都市、金沢においてより一層、伝統文化を継承するための教育を強化、促進することにより、飛躍的な日本文化の発展に寄与できることは疑う余地のないことである。

協力：三重県伊勢市 五十鈴塾

<http://www.isuzujuku.org/access/index.html>

## (5) 国際交流

森 啓子

### 1. はじめに

平成19年7月1日現在の金沢市の人口は455,268人。うち、外国人登録者数は4,108人。約100人に一人は外国人市民である。平成9年の金沢市総人口は455,338人。外国人登録者数は3,280人。10年前から市の総人口はほぼ横ばいであるのに対し、外国人登録者数は800人以上も増加している。世帯数で見ると10年間で1,000世帯以上増加している。

そこで、多文化共生という課題が生まれてくるわけだが、これは個人で解決できるレベル、地域で解決できるレベル、自治体が解決するレベル etc. ケースによって多くの課題が生じるとともに、それぞれのケースに応じた解決策が考えられる。そこで、平成20年秋に開館予定の玉川こども図書館(仮称)のスペースを有効活用する、住民参加型の地域内交流を提案する。

東京には、財団法人児童育成協会が運営する『こどもの城』がある(図1、2)。地下駐車場および地上13階からなる施設に、ホテル、研修室、レストラン、小児保健クリニック、保育施設などのスペースがあって、日本人・外国人を問わず、いつも家族連れでにぎわっている。常勤スタッフのお姉さん、お兄さんたちの笑顔はとても素敵で、子供たちをやさしく見守っている。



図1 こどもの城 入り口広場



図2 こどもの城 音楽ロビー

敷地面積を考えると、このミニ版を玉川こども図書館(仮称)内に作ることは不可能に近いが、造形スタジオ、音楽ロビー、ビデオライブラリー、パソコンルームなどの施設を金沢らしくアレンジして図書館内に作ることは可能であるし、市内のほぼ中心地である玉川に、日本人、外国人を問わず、家族連れが一緒になって微笑みながら時を過ごせるような空間づくりを目指して、1年間の研究のまとめとする。

### 2. フロアー活用案

金沢市民から玉川こども図書館(仮称)サポーターを募集する。サポーターは原則ボランティアとし、行事等のサポートにあたる。募集方法は、金沢市広報(新聞・テレビ)及びホームページ(以下HP)

#### i. フリースペース

##### 【日本文化体験】

- ① 日本人・外国人市民(児童及び保護者)に留学生や研修生も交えて囲碁、将棋、生け花、茶道、習字等の1日教室を開催する。  
4月は囲碁、5月は生け花、6月は将棋、7月は茶道、8月は特別行事、9月は… という風に行い、囲碁、将棋、かるたなどはチーム(家族)対抗戦を1年に1~2度するなどして、家族間の団結を深める。  
参加者；事前公募による定員制  
講師；金沢市登録の『町の先生』を中心に、ボランティアを募る。  
参加費；無料。ただしお花代、お菓子代などの費用は実費とする。
- ② 二俣和紙 紙すき体験  
二俣に1学級(約40名)分の紙すき用の枠があるので、移動教室が可能。  
絵葉書、便せんなど、オリジナル作品を作る。和紙を作るための材料調達が難しければ、牛乳パックを利用する。講師は二俣からお迎えし、加賀藩と和紙についての歴史も簡単に講義していただく。  
講師；金沢市二俣地区の紙すき職人の方々  
参加費；実費
- ③ 金箔工芸  
色紙と和紙はがきにシルクスクリーンの型を用いて糊をひき、金箔を貼って絵を作る。  
講師；金沢の若手金箔職人  
参加費；実費
- ④ 水引  
あわじ結びや花結びなど、基本の結び方を学び小物を作成する。  
講師；津田さん(4代目)・・・希望  
参加費；実費
- ⑤ 紙芝居作り  
画用紙に自由に紙芝居を作り(言語問わず)、みんなの前で発表する。  
日ごろ児童たちがどのようなことを考えているか、ご家族が知る良い機会になる。

### 【日本語教室】

外国人児童を対象とした日本語教室を開催する。(ご家族の参加可)

日時；隔週土曜日など

講師；日本語教師ボランティア（金沢市民から公募）

サポーター；日本語教師を目指す人、留学生 等

日本語や日本文化を教えながら、生活全般のサポートをする。

### 【国際理解講座】

月1回程度の国際理解講座を開く。土曜日・日曜日に実施。

対象；金沢市内児童及びその家族、日本語のわかる外国人 など。

募集；事前に金沢市広報やHPに載せる。

#### ① 留学生や研修生が自国の紹介をし、児童と交流する機会を設ける。

ブラジル、中国、台湾、韓国、インドネシア、バングラデシュ、アメリカ、カナダ、  
etc.

コーディネーター；金沢市国際交流員 ほか

#### ② 国際協力について学ぶ

タイトル；「もしも世界が100人の村だったら」

「貿易ゲーム」

「日本のODA」 etc.

講師；JICA 北陸職員、JICA ボランティア OV (old volunteers)、金沢市役所職員、  
NGO/NPO 職員等

#### ③ 金沢市の国際交流について学ぶ。

講師；金沢市国際文化課職員、姉妹都市交流員、国際交流団体 ほか

### 【夏休み企画】

こども夏祭り（ゆかたで参加）

毎年8月は、こども夏祭りを行う。綿菓子作りや、金魚すくい、輪投げ、駄菓子屋  
など、屋台子供版をつくり、実際に子供たちが売り子にもなる。会場入り口で職員が  
現金と紙のお金(子供銀行発行)を交換。ご家族が購入し、子供たちは現金の受け渡しは  
しない。

(予算別途)

\* 浴衣がない子供たちも参加OKとする。

### 【カウンセリングコーナー】

年4回程度、スクールカウンセラーがコーナーを設け、児童の相談を受け付け、いじ

め、ひきこもりなどの防止につなげる。

本来図書館が行うことではないが、少しでも相談窓口を広げ、富樫教育プラザには  
行けないが、玉川なら…という児童のため。

### 【特別企画】～ 市長と語ろう ～

2006年夏、北陸3県からホームステイプログラムに参加した生徒の引率のため、シド  
ニー郊外のブラックタウンという市（タウンという名前だが、市）へ行った。そして現  
地で市長にお目にかかる機会があった（図3、4）。生徒たちを受け入れてくださったこと  
に対するお礼を申し上げに言ったのだが、「私たちの市では、市長は気軽にお目にかかれ  
る方ではない。」と話す、秘書官が「市長はいつでも時間がある限り、市民の皆さんと  
お話しをすることを願っている。みんなが市長を選んでくれたのだから。」とおっしゃっ  
た。



図3 ブラックタウン市長に記念品を贈呈



図4 市長と議長席へ

同じ事を他の国の市長に申し上げる機会があった。やはり、秘書官が同じようなお答え  
をなされた。金沢でも市長が児童と対話をしていらっしゃるご様子を時々テレビで拝見す  
るが、もっと身近にお話できる機会があったらよいと思う。学校や地域単位ではなく、誰  
もが自由に利用できる図書館で、ラウンドテーブル形式の対話を実現することを希望する  
（日本語が十分でない外国人住民が参加する時は、通訳ボランティアをつける。）。あらか  
じめ学校で手直したメモや原稿を読み上げるのではなく、児童やご家族が金沢について  
自分の言葉で市長と語ることが出来る場作りをする。

参加対象；児童とご家族

アシスタント；市職員が市長のアシスタントとして参加する。

通訳ボランティア；必要に応じて市登録の通訳ボランティアにサポートを依頼する。

#### ii. ビデオライブラリー

こどもの城ビデオライブラリー（図5、6）泉の図書館のようなA-Z ONEキッズ（こ

ども専用のAVブース)コーナーを設ける。ここでは、親子でビデオ・レーザーディスク・コンパクトディスクを楽しむことが出来る。会員証は図書用と同じものを使用。



図5 こどもの城ビデオライブラリー入口

図6 こどもの城ビデオライブラリーブース

### iii. 造形スタジオ

子供たちが粘土やブロックを使用して自由に作品を作ることができるコーナーを設ける。小さなテーブルに子供用のいすを置き、自由に遊ぶ。作品は持ち帰らずに、再利用する。大きなホワイトボードを設置し、児童が自由に絵を描けるようにする。サポーター；金沢美術工芸大学 学生 等

### iv. 音楽ロビー

手作り楽器(図7、8)を作ったり演奏したりするコーナーを設ける。材料はペットボトル、空き缶、タコ糸などいろいろ。サポーター；教師を目指す学生 等



図7 こどもの城 手作り楽器



図8 こどもの城 手作り楽器

### v. パソコンルーム

学校では十分にパソコンを利用する時間がないかもしれない。そこで、玉川子供図書館内にOPAC以外に数台のPCを設置することを提案する。

- ① フリーで使用できる時間は一人1時間とし、使用簿に記入の上図書カードを預けて使用する。
- ② 海外と結んで、こども討論会などを行う。姉妹都市の国際課に協力を要請し、希望の小学校等をつのる。インターナショナルスクール可。ランを利用して、できればあまり時差のない姉妹都市の中からネット経由で交流する。土曜日・日曜日に行う。  
サポーター；留学生、小学校教師、金沢市立工業高校 生徒 等  
(教師については、金沢市の規定により謝礼を支給)

## (6) 伝承

越野 外至雄

### 1. はじめに

伝承には種々の分野があるが、今回は民話について取り上げた。金沢地域に伝わるものを中心に中高齢者の方々に書いて頂いた「メモ」や「語り」を集め、小中学生などに読んでもらえたらという試みである。現段階では、約八十話を収集<sup>2</sup>している。ここではその一部を紹介したい。

金沢は勿論、石川県全域に見られる事だが、集った民話を系列化すると大体つぎのようになる。

1. 地名の由来に関するもの
2. 神話や伝説など宗教に関するもの
3. 親子や人の情に関するもの
4. 地域の歴史や自然現象、生活での思い出や行事に関するもの
5. 創られていった話を源とするもの

この地方の主な特色は、法然上人や蓮如上人に関するものや義経伝説が多いが、神代に上る神話伝説は比較的少ない。また、母の子を思う情愛伝説は、立像寺の白餅、俵屋や金石に伝わる飴伝説のように比較的小さな領域に多くある。

江戸 300 年に渡る城下町としての、武家社会の秩序や生活を語るものや、明治以後の北陸の雄都としての、当時のモダンな風情を語り伝えるものも多い。

では、具体的に例示しよう。

### 2. 具体例

#### 例1 地名の由来に関するもの 「医王の<sup>ぎおう</sup>行者<sup>ぎやう</sup>」

その昔7,8世紀のころでしょうか、加賀の国の医王山<sup>いおうざん</sup>に一人の高僧が修行していました。

ある時、能登の国から一人の沙弥（しゃみ）が来て弟子になり、一生懸命に修行し、お仕えしましたので、臥行者と云われるようになりました。

日本海を通る船に向かって托鉢<sup>たくはつ</sup>の鉢を飛ばして布施<sup>ふせ</sup>をもらっていました。

ある晴れた日に米を積んで、宮越港（金石）に入ろうとした一隻の船が見えたので、いつものように船に向かって鉢を飛ばしてお願いしましたが、船頭は、それを拒み鉢を海に捨ててしまいました。投げ捨てられた鉢は、海から行者のもと、医王山へと返っていきました。すると、後を追うように、船の上の米俵や櫓や櫓が鳥のようについて行きました。船頭はただただびっくりして、港に船を入れ、積荷などが飛んで行った方向を調べると、医

<sup>2</sup> 本研究報告では全文を載せられないが、これらの成果は後日、編集・整理して発表したいと考えている。

王山の方へ飛び散ってしまいましたので、さっそく行者の元へお詫びに行きました。

船に戻ってみると不思議なことに、荷物はすっかり元に戻っていました。船頭は行者の偉大さに感動して米をすべて寄進しました。

米俵の飛んで行ったところが旧浅川村の俵（たわら）であり、櫓の飛んだところは飛櫓（とぶろ）で戸室（とむろ）、すなわち戸室山<sup>とむろやま</sup>であったと云われています。

### 例2 宗教に関するもの

#### その一 「お塩梅」

北陸には、蓮如上人など高名なお坊さんに関する伝説も多くあります。

紙すきの里として有名な医王山麓<sup>ふたまた</sup>の二俣町<sup>れんによしょうにん</sup>には、蓮如上人ゆかりのお寺があります。その本泉寺の石段を上り山門を入ると、境内の中央本堂の前に、石垣に囲まれた一本の梅の木があります。

或るとき、蓮如上人が二俣を訪ねられ、里人達にいろいろと教えさとされましたが、「自分の教えが間違っていなければ、この種<sup>たね</sup>は芽吹くであろう」と申され、梅干にするため塩漬けにしてあった梅の種を植えられました。

時代を経た今も、この梅の木は、立派に茂っているところをみますと、上人の説かれた教えの確かさに、人々は更に深く尊敬し、おしたいしました。

#### その二 「かわうその名剣」

おなじ二俣でのお話です。

二俣の集落を流れる川が度々はらんし、人々は大変困っていました。それを聞いて蓮如上人は、川の改修工事を提案されました。村人達は工事に精一杯励んでいました。

すると、工事の途中で、かねてから、悪さばかりしていたかわうそを見つけ、皆で痛めつけようとしたのですが、上人はかわうそを諭し、村人の怒りをしずめて逃がされました。

その夜、かわうそは、ざるに一杯のさかなをいれて、お礼にと持ってきましたが、上人は「おまえも命が惜しかろう、魚も同じであろうから川へ放してやりなさい。二度と悪さをしないことの方が大切です」と申されました。

次の日、またかわうそがやってきて、戸を叩き、「これは私の宝物ですが、お受け取りください」といって、一振りの名剣を差し出し、村人と一緒に働くようになったということです。

このかわうそと言うのは、本当は村人を悩ます夜盗の一団だったのではないのでしょうか。

#### 例3 親子や人の情に関するもの 「野田寺町の<sup>かき</sup>団子屋<sup>だんぢや</sup>」

三百年ほど昔のお話です。

金沢の野田寺町に一軒の団子屋がありました。年老いた夫婦が、いつも仲良く店番をしていました。ある晩、そろそろ店を閉めるころ、青白い顔をした女の人がやってきて、そ

っと銭二文を出して白餅しろもちを買いました。女の人は餅を手にとると、大切に抱えて帰っていききました。

そんなことが毎日続くので不思議に思い、ある夜思いきって、店の主人が後をつけていくと、立像寺（りゅうぞうじ）の門の中へ入って姿が消えてしまいました。気味が悪くなった主人は、寺の門をたたいて、住職に事情を話すと、「思い当たることがあります」といって、住職は近所の家へ小僧さんを使いにだしました。その家は妊婦が死んで、この寺に土葬したということでした。

翌日、やって来た家人とともに墓を掘ったところ、かすかな弱い赤子の泣き声でしたので、棺を開けてみると、亡くなった母親のまわりに白餅がならべてあり、赤子を取り上げると男の子であったという。その家の主人は若くして亡くなった妻をふびんに思い、手厚くとむら、子供を大切に育てたそうです。

その後、団子屋は、うわさを聞いた人々が命をつないだ餅を買い求めるため、たくさん来店し繁盛したそうです。子を思う母親のせつない気持ちが伝わる哀れな話です。

#### 例4 生活の情景に関するもの 「生り物屋（なりものや）」

本多町界隈かいわいには、多くの下級武士の家がありました。その殆どは、平屋で木端こばた草きの上に石ころをおいた屋根で、広さだけは十分大きな屋敷でありました。

どの家の背戸せどにも、必ずといってよいくらい生り物の木が何本かありました。柿、枇杷、梅、杏あんず、無花果いちじくなど、冬を除けば花が咲いたり、食べられる木の実が、いつでも季節に合わせて何かあったように思います。私の家の場合、幹が一抱えもあった杏は、花の盛りの見事さと甘酸っぱい実のおいしさは格別でありました。

その頃、「生り物屋」という生業なりわいがあって、大八車に大きな籠をつけて木の実を買いに来る人がいました。熟した木の実の状態を確かめて、自分が木に登ってもぎ取り、その量に応じた代金で、買いとっていきました。高い時には、月給 60 円の時代に 20 円にもなったということです。

下級武士は、扶持ふちが少なかったので、庭木として美しさと食糧の確保をかねて木の実の生る木を植えたものですが、後には、このように売り物として家計を助けるようになりました。

#### 例5 地域の歴史物語に関するもの 「鳴和の滝」

金沢市の春日町の旧北国街道を鳴和六丁目の方に、勾配のある坂道を上りつめると鹿島神社があり、その右隣に高さ三メートルくらいの細い滝が二本落ちていて、その前にある碑には、「鳴るは滝の水 日は照るとも 絶えずとうとうたり」と刻まれています。謡曲の一節です。

源義経・弁慶の一行が海沿いに大野町を経て、この鹿島神社にたどりつき、数日間疲れを癒したということです。義経一行が、社やしろに向って旅の安全と一時の逗留とうりゅうをお祈りすると、

神社の下からきれいな水がわき出たそうです。一行は神さまに感謝をし、木を切って水路をつくり、くつろぎました。

これが鳴和の滝のはじまりだそうです。

#### 例6 創られた話を源とするもの 「紫団と団長『お玉さん』」

私が通っていとある女子高校でのお話です。学校内に「紫団」と名乗る不良の集団があるとささやかれていました。団長は「お玉さん」と呼ばれていて、元華族かぞくのお姫様で、とっても美しい人だと云うことでした。口から口へと語り継がれていましたので、私自身は出会ったことはありませんでしたが、怖くおもしろながらも、大いに興味を持っていました。

それから十年余り経った頃、私の嫁いだ家のおしゅうとめ「姑」さんから「紫団」の話聞いて驚きました、お姑さんは私と同じ女学校を卒業した大先輩に当る人でしたから、まったく同じ内容の噂話はその当ても流れていたと云うのです。

「紫団とお玉さん」は、このように、怖い反面、気が注がれる不良集団として、いつまでも語り継がれているようですが、暴力や社会のひんしゆくを買うような不良行為あったようなことは、一度もありません。興味をそそる伝説で自分達を戒めて行こうとする教えだったのでしょうか。

（参考資料：越野迪子編集 女性学金沢「かが・のと今昔ものがたり」原稿集）

#### 例7 広坂通り

大正生れのおばあさんが語ってくれた、絵葉書のような広坂通りの情景です。

小学校の頃は、住所は「広坂通り〇番地」と書いていました。今のように車が激しく通ることもなく、もちろん自家用車を持っている家などまれで、家の前に車が止まればお医者さまが来られたのか、と思うくらいでした。

子供達は、いつも表通りで、電信柱を本拠として陣取りゴッコをして遊んでいました。現在、分離帯になっている用水までの片側の広さが、その頃の道路幅で、真中を市電が走っていました。用水の向こう側は県庁の敷地で、学校の向いにコンクリートの橋がかかっている、県庁前庭に続いていました。学校というのは、国立の女子師範学校、その付属小学校と幼稚園それに県立第二女学校があり、多くの子供や学生さんが行き交いました。今はみんな取り壊され 21 世紀美術館が建ちましたが、子供の声は少なくなったように思います。

向こう側は兼六園の方から、角が広坂警察署（現の中警察署）、隣に武徳館があり警察の方などが剣道や柔道の練習をしていて、通り掛かりの人が、ガラス戸ごしにのぞきこんでいました。その隣に消防署があり、いつも赤い消防車が 2 台入っていました。県庁の敷地はちょっと低く段差があり、境界には子供でも飛び越せる小川が流れていました。浅くて水がきれいだったので、素足で入り、蟹や巻き貝を取ったりしました。

県庁に入るとテニスコートが二面あり、テニスはもちろん、時にはバレーボールの試合

もしていました。子供達は自転車の練習場に使いました。また県庁には柵に囲まれた原っぱが左右二箇所あり、他は全部玉砂利が敷きつめられていました。原っぱでは、シロツメ草が一面に咲いて、その中に座って花を摘みながら、頭飾りや首飾りを作り、草すもうをして遊びました。また、そこには女の子でも上ってぶら下がって遊べる手頃な木がありすてきな環境でした。

現在も庁舎の前に立っている巨木の椎の木、秋になると子供たちは椎の実を拾いに行き、夜風が吹いた翌朝などは、早起きをして、ざるにいっぱい拾ってきて、祖母に煎ってもらって食べたものです。

学校から市役所間の家数は今と同じくらいの件数で、同じ年頃の子供たち八人いて、よく県庁を遊び場としました。時々庁舎の中を探検に行きました。三階までは普通の階段ですが、それから上は鉄骨の階段で、前が開けていて一階まで見えるのがこわくて、四つんばいになって屋上へ上りました。屋上からは市内が見渡せて楽しいことの一つでした。

その県庁も数年後には移転のため取り壊されることでしょう。最近街の姿が、あまりにも早く次々と変わり、思い出ができる時間もないようです。

#### 例8 太陽がグルグル三個に

今から60年ほど前まで、金沢の東長江町では、秋の彼岸の中日（秋分の日）に数人の古老が「三コツさん拝み」という不思議な行事を行っていました。

お天気のよい中日の夕方に、ゴザを持って町内の裏山の一番高い峰（通称オブラ峰）へ集り、日本海へ沈む夕日を拝みます。すると、真っ赤な太陽が、グルグルと回りながら三個にかたまって、海中へ沈んで行くのが見えるのだそうです。

電灯のない昔から、太陽と月と星を意味して、「三光さま」とあがめてきましたが、それが「三コツさま」となり、お彼岸の中日に、三コツさまが真西へ沈むその真下に、西方浄土（仏教上の仏のすむ理想の世界）の門があると信じての民族行事だったのでしょう。

### 3. まとめと提言

第一章の冒頭において、述べたように、当グループの研究・調査は主として平成20年に開館予定の玉川こども図書館（仮称）（以下、図書館と呼称する）が具備すべきソフト面の機能を具体的に提案する目的で実施された。ただ、当グループは金沢市から委嘱を受けた公的な図書館の企画・運営方法を検討する組織ではないので、完全にフリーな市民の立場から第二章に提示した六つのテーマに関連する事項について研究・調査を実施した。本章においては、これらのテーマ別に研究・調査結果をふまえて、そのまとめと提言を行うこととする。

#### (1) 歳時記

図書館内に「金沢子ども歳時記」の展示・体験コーナーを設置し、第二章において示した歳時記に沿って各種の伝統行事を企画・運営する。

#### (2) 水の模型と加賀の水ファンタジー

金沢は古来、「水の都」と呼ばれてきた水の豊かな街である。このために、寛永9（1632）年に小松の町人・板屋兵四郎の指揮・監督のもとに造られたと伝えられている日本三大用水の筆頭・辰巳用水、兼六園・霞が池から金沢城・二の丸へ水を送った、伏せ越しの理（逆サイフォンの原理）を用いた管路、長町の武家屋敷や商家の水車、新派18番「滝の白糸」で知られる水芸、金城霊澤、兼六園にある日本最古の噴水など金沢は水に縁の深い歴史的建造物や文化を色濃く残している。図書館にこれら金沢に縁の深い水理構造物の模型や道具の展示コーナーを設置する。このコーナーには、古いものだけでなく、第二章において紹介した「蛇水芸」、水時計、噴水などの子どもの心の中に潜んでいる科学に対する素朴な感動を呼び起こすような水に関するさまざまなしなかけを世界中から収集して展示する。

#### (3) 絵馬

東山にある真成寺に現存する絵馬（明治35年製作）をつぶさに調べると、地元に住んでいた女性たちが協力して手造りで仕上げた押し絵により、花車を引いている大勢の子どもたちの髪型、服装、そして帽子、子どもたちが持っている旗や楽器、花車の構造、描かれている花や草、あるいは当時の真成寺周辺の様子をうかがい知ることができ実に興味深い。こうした情報は、民俗学的にも貴重であるので、図書館にこの絵馬から判読することが可能な子どもの髪型、服装などをピック・アップして展示するコーナーを設ける。

将来的には、損傷の激しい絵馬「花車」の修理・復元や東山地区の街起こしの一環として、子どもたちが古式に習って花車を引いて真成寺を詣でる花祭りの復活につなげたい。

#### (4) 文化体験

金沢において生まれ、発展し、継承されてきた伝統文化、金箔、九谷焼、象嵌、友禅、茶道、能などを正しく次世代のこどもたちに伝えていくことのできるリーダーの養成所を図書館内に開設する。金沢の伝統文化の継承は、このようなリーダーの存在なしに不可能であると考えられる。この養成所が良いリーダーを輩出することができれば、金沢の伝統文化は図書館を中心拠点として未来永劫にわたって伝えられていくこととなる。

#### (5) 国際交流

図書館に国籍、人種、言語、宗教、信条などあらゆる壁を取り払った自由な子どものための遊び空間を設ける。こうした空間をさらに拡大して異なる国籍からなり、異なる言語を話す大人が相互に語学を教え、学び合うことのできる国際語学教室、国際交流サークル、あらゆる国の子どものための悩みごとを受け付ける国際相談室を図書館に開設する。

上記のような国際交流事業を円滑に進めるための設備として、図書館に家族が一緒に楽しめるビデオ・ライブラリー用ブース、子どもが自由に作りたいものを工作することのできる工房、子どもがなんでも好きなように落書きすることのできる、壁やホワイトボード、楽器の製作や演奏が自由に行える音楽ロビー、海外の子どもと自由に交信することのできる国際ネットワーク・ステーションを設置する。

一般市民、文化伝導リーダーやサポーター、子どもに対して国際理解・交流の必要性や重要性を教育・啓蒙するために図書館において国際理解講座を定期的で開催する。この講座の講師には、留学生、学者、留学経験者などをあてる。

#### (6) 伝承

金沢に古くから伝わっている伝承の中で民話や方言を掘り起こすために図書館が系統的に収集活動を行うことは実に意義深いことである。このために、図書館の重点プロジェクトとして、金沢に伝わる民話や方言を収集、編集、そして出版する活動に特科した少なくとも10名以上の専任スタッフで構成されるグループを設置する。このグループの任務の一つに民話を紙芝居にすることも含まれる。このことで、民話が子どもによりスムーズに伝えられることを期待できる。さらには、こどもが民話を読み聞かせてもらったり、読んだりした後でその話の内容の紙芝居を自ら製作することができるコーナーを設置する。こ

の作業を通じて子どもは民話の内容をより深く理解するはずである。



4. 資料

真成寺 繪馬「花車」



## 5. 活動状況

年月日	場所	活動内容
平成18年9月2日	文化ホール	任命式、オリエンテーション、グループごとの打ち合わせ
9月15日	南分室(研究室)	研究活動の進め方の打ち合わせ
9月29日	南分室(研究室)	研究テーマ・各メンバーの問題意識を議論
10月6日	南分室(研究室)	研究テーマ・方針の打ち合わせ
10月20日	南分室(研究室)	研究テーマ・具体的内容・研究対象の検討
11月10日	南分室(研究室)	研究テーマ・具体的内容・研究対象の検討
11月24日	南分室(研究室)	資料収集・分析
12月8日	南分室(研究室)	資料収集・分析
12月22日	南分室(研究室)	フィールドワークの準備・調査
平成19年1月12日	南分室(研究室)	フィールドワークの計画
1月26日	南分室(研究室)	具体的内容・研究対象の検討
2月9日	南分室(研究室)	フィールドワークの準備・調査
2月23日	南分室(研究室)	フィールドワークの準備・調査
3月9日	南分室(研究室)	フィールドワークの準備・調査
3月23日	南分室(研究室)	研究テーマ・具体的内容・研究対象の検討
3月25日	三重県	フィールドワーク：五十鈴での伝統文化の発信事業調査
4月13日	南分室(研究室)	中間発表のための資料作成
4月14日	南分室(研究室)	第4期市民研究機構 中間発表
4月27日	南分室(研究室)	資料収集・分析
5月11日	南分室(研究室)	資料収集・分析
5月25日	南分室(研究室)	資料収集・分析・議論
6月8日	南分室(研究室)	資料収集・分析・議論
6月22日	南分室(研究室)	資料収集・分析・議論
7月12日	東京都	フィールドワーク：こどもの城 フロア使用の実態調査
7月13日	市内	フィールドワーク：市内公民館・児童館でのアンケート調査
7月13日	南分室(研究室)	研究テーマ・具体的内容・研究対象の検討
7月22日	市内	フィールドワーク：真成寺 押絵の大絵馬調査
7月27日	南分室(研究室)	調査結果の検討
8月10日	南分室(研究室)	調査結果の検討
8月24日	南分室(研究室)	成果報告書執筆
9月7日	南分室(研究室)	成果報告書執筆

(2007年9月7日時点まで)

## 6. 活動メンバー

No.	区分	氏名
—	ディレクター	八重澤 美知子
1	研究員(代表)	中川 武夫
2	研究員(副代表)	黒瀬 清
3	研究員(副代表)	森 啓子
4	研究員	毛利 泰江
5	研究員	越野 外至雄
6	研究員	菅村 美知子
7	研究員	苗田 敏美
8	研究員	堀江 常稔
9	研究員	安井 史郎
10	オブザーバー	山本 幸恵



